特定非営利活動法人三鷹ネットワーク大学推進機構

「民学産公」協働研究事業　成果報告書

はけのメディアラボ事業

――はけを舞台とした、SDGs プログラム研究・実証事業

NPO 法人グリーンネックレス

目　　次

0．本事業の概要――――――――――――――――――――――――――――― 1
0-1．本事業の背景――――――――――――――――――――――――――― 1
0-2．本事業の目的――――――――――――――――――――――――――― 2
0-3．事業の実施体制――――――――――――――――――――――――― 2
0-4．協働研究事業の期間――――――――――――――――――――――― 4

1．はけの SDG s 講座の実施――――――――――――――――――――― 5
1-1．なぜ、SDG s 講座か――――――――――――――――――――――― 5
1-2.「「はけ」の SDG s 講座プログラムの実施――――――――――― 6

2．『はけのスタディブック』作成に向けたアンケート調査の実施協力―― 15
2-1.アンケートの目的と実施方法――――――――――――――――― 15
2-2.アンケート回答結果――――――――――――――――――――― 18

3．はけ歩きゲームデザイン――――――――――――――――――――― 22
3-1.はけ歩きゲームデザインの目的――――――――――――――― 22
3-2．『ムジナ家族ゲーム』の概要――――――――――――――――― 22
3-3．『ムジナ家族ゲーム』プログラム――――――――――――――― 24
3-4．『ムジナ博士』上遠氏ヒアリング――――――――――――――― 42

4．『はけのメディアラボ(仮) 』の運営スキームの検討と具体化――――― 44
4-1.「はけの絵／音コンテ・コンテスト」の提案――――――――― 44
4-2.『THE 崖線』の企画――――――――――――――――――――― 48
4-3．はけのメディアラボ事業の検討――――――――――――――― 50

０．本事業の概要～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

0-1. 本事業の背景

特定非営利活動法人グリーンネックレスは、ＪＲ中央線の三鷹～立川間の沿線エリアを中心に、環境共生型のまちづくりを実現するための活動に取り組んでいます。1999 年に三鷹～立川間の高架化事業が着手されたのをきっかけに、沿線地域の市民が連携し活動をスタートさせました。2000 年に沿線 6 市の市長と関係 23 団体を招いた「グリーンネックレス公開サミット」を開催。 2002 年には特定非営利活動法人（NPO 法人）となり、市民・行政・大学等の研究機関、事業者等と連携しながらまちづくり活動を展開しています。雨水の利活用への取組みを拡げるための中央線沿線の大学を連携した「雨の学校」、都市農地保全という観点からの民有緑地等の保全活動、環境配慮型モデル住宅づくり（小金井環境学習館）の企画・事業化などに取り組んできました。

こうした活動の内で、行政域を超えた地域の資源として、国分寺崖線に着目し、「はけの学校」を 2013 年よりスタートし、以下のような様々な活動を行ってきました。

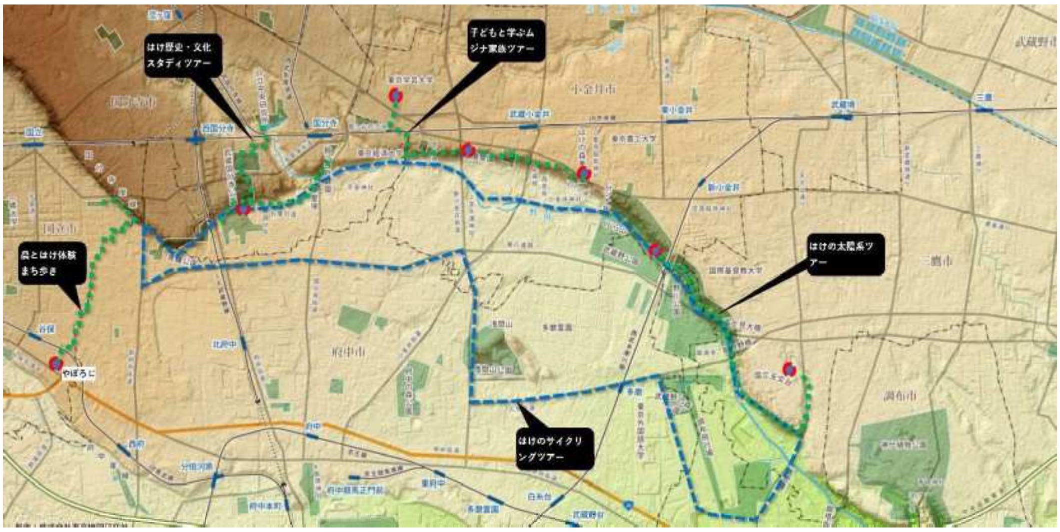


図 0-1　はけ沿い街歩きルート検討例

■2013 年 11 月国分寺市恒例「ぶんぶんうぉーく」参画：崖線実踏「野川源流」（参加者 10 名）、崖線実踏活動を「はけの学校」とし活動開始。

■2014 年~崖線実踏春夏秋冬実施（参加者計 50 名）

■2015 年「はけの学校」プロジェクトが東京都・セブンイレブン記念財団助成採択。

■2016 年 11 月東京経済大学地域連携センターと協力し、「シンポジウムはけ／崖

線の新時代」@大倉喜八郎進一層館（参加者 300 名）
■2017 年 6 月はけの学校主催「縄文遠足」：国際基督教大学考古学林先生案内（参加者 30 名）
■10 月はけの学校出前講座・早稲田実業学校初等科教諭グループ自主企画（参加者 11 名）12 月～~18 年 5 月まで　崖線実踏／高村薫小説「我らが少女 A」を歩く計 3 回実施 40 名参加）
■2018 年 2 月はけの学校プロジェクト「はけのライブラリー」設置＊1
（小金井市環境楽習館他）
■2018 年 5 月まちカフェ連続講座「はけの地図を描こう」@学芸大学ノートカフェ
■2018 年 6 月まちカフェ連続講座「はけの地図を歩こう」@学芸大学ノートカフェ

一方、2016 年 3 月、「国分寺崖線」を横断・縦断する都市計画道路が「第 4 次事業化計画」となり、大岡昇平「武蔵野夫人」の舞台ともなった歴史的・文化的な環境が失われる可能性も高まっています。今こそ、「国分寺崖線」の価値、そしてはけとは何か、「国分寺崖線」を地形と地域の歴史から読み解き、その価値を共有すべきであるという認識の下で、2018 年度『等高線地形図を読み解き百年前の武蔵野を歩く』事業を三鷹ネットワーク大学の助成を受けて実施、その検討成果として、『はけのメディアラボ事業～はけを舞台とした、SDGs プログラム研究・実証事業～』を提案、協働研究事業を行ったものです。

0-2. 本事業の目的

多摩地域に住み、活動する市民・企業・大学・NPO が、国分寺崖線の魅力を学ぶため、『はけのメディアラボ事業』の立ち上げを目指し、以下の 4 点を研究・検討を行うことを目的として、本事業を実施しました。
(1)はけの SDG s 講座の実施
(2)『はけのスタディブック』作成に向けたアンケート調査の実施
(3)はけ歩きゲームデザイン
(4)『はけのメディアラボ(仮）』の運営スキームの検討と具体化

0-3. 事業の実施体制

以下のメンバーで、研究体制を組み、協働研究実施した。

(1)体制
（研究代表）
土肥　英生　　（NPO）グリーンネックレス代表理事
（研究コーディネート・総括）
野口由紀子　（NPO）グリーンネックレス理事
（研究協力）

椿　真智子　　東京学芸大学人文社会科学系人文科学講座地理学分野教授
有賀　夏希　　㈱東京地図研究社
関　幸子　　㈱ローカルファースト研究所
佐藤　留美　　(NPO)バース　事務局長
鈴木　俊彦　　(NPO)武蔵野コッツウオルズ　代表
横田　右近　　ココンブレンド

(2)実施主体プロフィール

（NPO）グリーンネックレスは、ＪＲ中央線の三鷹～立川間の沿線エリアを中心に、環境共生型のまちづくりを実現するための活動に取り組んでいる。

その事業内容の一つとして、「地域の環境に根差した生活・文化・コミュニティの場づくり」を行っている。国分寺崖線のまちあるき等を継続して行っており、はけの空間の歴史的・文化的な価値を発信・交流するプロジェクトを実施している。

(3)協力団体プロフィール

■東京学芸大学人文社会科学系人文科学講座地理学分野

東京学芸大学地理学分野は教員養成系大学としての教育プログラムを実施し，その基盤となる研究を行っている。

研究題材として国分寺崖線に着目し、はけを題材とする地域学習の視点と枠組みに関して研究を行っている。

■㈱ローカルファースト研究所

持続可能な地域社会を目指すローカルファーストの名前を冠し、地域を大切に、地域で生き、暮らし、老いていける社会を創造することを目的に、様々な地域、組織、団体をサポートする事業を実施。代表は、三鷹市大沢出身の関幸子氏。

■(NPO)バース

自然教育や自然解説、ボランティア・コーディネート、レンジャーなどの実践的な活動と、市民団体のサポートや企業 CSR 支援などの中間支援活動、都市公園や自然公園の指定管理事業を展開、武蔵野地域で幅広く、都立公園の管理を実施。

■ココンブレンド・武蔵野から編集室

地域の情報を集めて発信する企画･編集工房である。

1982 年より地域雑誌「こんにちは小金井」を隔月で発行。’87 年に小金井から

東京西半分にエリアを拡大して「武蔵野から」に移行、2010 年まで発行していた。現在は企業･自治体・NPO などの広報誌やミニコミの編集を行っている。

■株式会社　東京地図研究社

東京地図研究社は半世紀にわたり、測量調査、地図編集、地理空間情報データ作成・設計など、さまざまな地図や地理情報に関する業務を行っている。

地図に既存の枠を超えた価値が求められている現在では、地図・地理情報の可能性を柔軟かつ大胆に追求し、社会における課題解決に寄与すべく、新たなビジネスを目指している。

■一般社団法人 武蔵野コッツウォルズ

豊かな緑が広がる武蔵野エリアの魅力を発信している。三鷹市、調布市、府中市、小金井市がほぼ１点で接する場所を中心点とし、半径約５ｋｍの範囲を目安とし、その魅力を感じながら巡る「森の地図・スタンプラリー」、ウォーキングやジョギング、ポタリング（サイクリング）、自然散策、グルメ散歩などの体験マップを製作、発信している。

0-4. 協働研究事業の期間

2019 年 7 月 15 日～2020 年 2 月 14 日

１．はけの SDG s 講座の実施～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

国分寺崖線に代表される「はけ」の価値を発見し、共有化する事業を実施するため、はけの SDG s 講座プログラムを検討・実施しました。

1-1.　なぜ、SDG s 講座か

持続可能な開発目標（SDGs）とは，2001 年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として，2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され，地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind)」ことを目指しています。

昨年度の「はけ』の聞き書きを踏まえ、「はけ」(国分寺崖線)が持続可能な地域形成のモデルとなる場であると位置づけ、SDG s 講座プログラムを検討・実施することとしました。

図　「SDGs（持続可能な開発目標）」の１７つのゴール

1-2.「はけ」の SDG s 講座プログラムの実施

（１）SDG s プログラム実施の視点

昨年度は、はけ歩きを主体にしたはけの地形や魅力を知るプログラムを実施したが、今年度は持続可能なまちづくりを進めるという観点から、都市施策と地域文化・環境保全の関わりを横断的に学ぶプログラムを実施しました。

（２）「はけ」の SDG s 講座プログラム

以下の 2 つの SDG s 講座プログラムを実施するとともに、2020 年 12 月 7 日に実施された「はけと生き物」シンポジウム（国立農園の会主催）のコーディネート支援を実施しました。

SDG s 講座プログラム名	SDG s 目標	実施日	場所	講師名	参加者
ある土地の物語武蔵国分寺公園誕生とは？	１１ １５ １７	2020 年 11 月 17 日	西国分寺駅～武蔵国分寺公園～兒嶋画廊～国分寺駅	児島俊郎(兒嶋画廊オーナー) 池田敦子（NPO）グリーンネックレス理事）	5 名
環境がつなぐコミュニティ	１１ １５ １７	2020 年 12 月 5 日、6 日	東小金井駅～かねエルハウス～新小金井駅～野川公園～ICU	リンドラ和代（翻訳家） 斎藤弘典（国分寺バードハウス振興会） 横田右近（ココンブレンド）	4 名（福岡市　職員）
ハケと生き物。	１１ １５ １７	2020 年 12 月 7 日	滝乃川学園	椿真智子（東京学芸大学人文科学講座 地理学分野教授） 西田一也（国立研究開発法人 国立環境研究所。ママ下湧水公園の会） 米川　覚（滝乃川学園石井亮一・筆子記念館館長）	56 名

（３）実施講座の概要

１）ある土地の物語武蔵国分寺公園誕生とは？

【講座の概要】

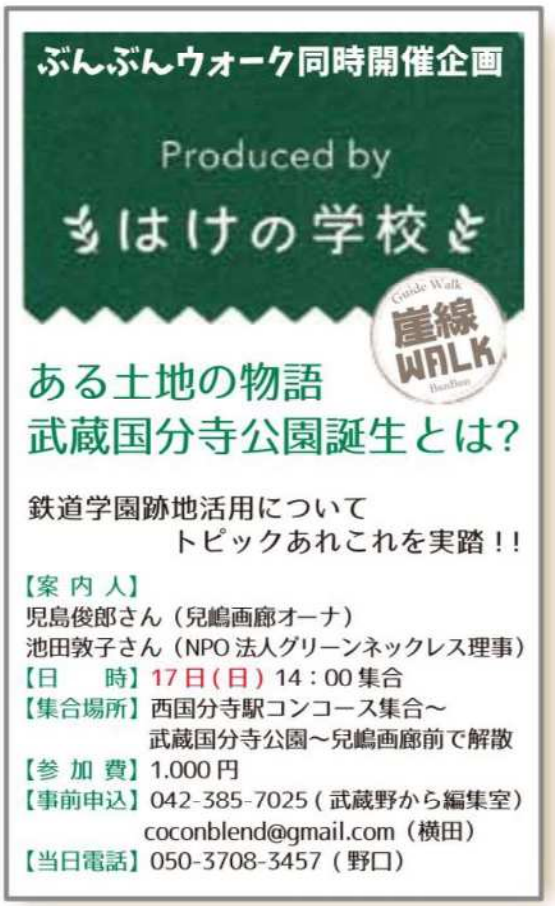
〇実施日時：2020 年 11 月 17 日 14 時～17 時

〇街歩きルート：西国分寺駅→西国分寺駅改札集合【国分寺崖線凸凹地形図】で崖線の確認→掘割の鉄道→東山道遺跡→武蔵国分寺公園→児島画廊→国分寺駅

〇講師：池田敦子（NPO）グリーンネックレス理事）

児島俊郎(兒島画廊オーナー)

都議として、武蔵国分寺公園の設置、保全に関わった、池田敦子氏（NPO)グリーンネックレス理事をガイドに、武蔵国分寺公園で、経緯とその当時の国分寺市民の意見を踏まえ、崖線の緑地保全、区域の設定がどう決まったのか、解説を受け、その後、国分寺崖線のただ中にある児島画廊に移り、児島俊郎氏(兒島画廊オーナー)より、洋画家である児島善三郎氏（1893 年 2 月 13 日 - 1962 年 3 月 22 日）が国分寺崖線にアトリエを構えた経緯と、縄文文化と南米の伝統美術の共通点から、縄文時代に根差した地域の環境を持続的に維持することの価値と可能性について、意見交換を行った。



【講座を通じて得られた知見】

■武蔵国分寺公園周辺はポイントが多彩

万葉時代史跡があり、児島善三郎画伯（1936（昭和 11）年～1951（昭和 26）年）は当時の国分寺村にアトリエを構えた。国分寺崖線の緑を描いた洋画も多く残っている。

■80 年で人口は 18 倍、世帯数は 430 倍

当時の国分寺村の人口は 7242 人、1311 世帯、.現在の人口は 125,067 人、世帯数 61,166（2019 年 12 月）。

■昭和年代初期のハケの別荘・アトリエ立地

・江口別荘（現都立殿ヶ谷戸公園）を岩崎家が買収（昭和 4 年 1983）
・今村別荘（野川源流）が日立中央研究所になった（昭和 17 年）
・中村研一＊アトリエ（昭和 20 年）
＊児島善三郎と同世代・同郷（福岡市）の洋画家

■鉄道及び鉄道駅開設の経緯

中央線に至る鉄道の始まりは、馬車鉄道で 1886（明治 19）年に運航開始。国分寺駅は中央線開通時につくられた武蔵野エリアでは最も古い。その後、明治 22 年、新宿―立川間 16 マイル／27.2 キロ開業した。当時は 4 往復、片道 1 時間で運転されていた。また、1928（昭和 3）年には、多摩湖鉄道（現西武多摩湖線）が国分寺駅と萩山駅間で開通した。

武蔵国分寺公園でのレクチャーの様子

児島氏との意見交換の様子

2）環境がつなぐコミュニティ

【講座の概要】

〇実施日時：2020 年 12 月 5 日 19 時～22 時
2020 年 12 月 6 日 9 時～12 時

〇街歩きルート：
12 月 5 日　かなエルハウス（寄合所）
12 月 6 日　12 月 5 日
かなエルハウス（寄合所）
→中央線高架下緑道（東小金井駅から武蔵境駅間のみち）
→西武多摩川線新小金井踏切→線路沿い通称 ICU 坂
→野川公園自然観察センターで都立公園管理運営等についてヒアリング（(NPO）バース）
→野川両岸→大沢の里と水車経営農家
→わさび栽培農家の江戸時代の復元建物
→ハケの古道（人見街道）→東八道路→I CU 南門
→湯浅八郎記念館→湯浅八郎記念館ラウンジで解散

〇講師：12 月 5 日　斎藤弘典（国分寺バードハウス振興会）
12 月 6 日　リンドラ和代（翻訳家）、横田右近（ココンブレンド）

福岡市住宅都市局花とみどりのまち推進部一人一花推進課の職員 4 名が参加する、はけ歩きを通じ地域と連携した緑保全の地域環境美化の取り組みを学び、交流を行う講座を実施した。

12 月 5 日は、地域のまちづくり組織が昨年、開設した寄り合い所（かなエルハウス：東小金井駅歩 4 分）にて、福岡市で推進されている一人一花推進活動について、福岡市住宅都市局花とみどりのまち推進部一人一花推進課のメンバーからレクチャーを受けるとともに、武蔵野地域での取り組みを紹介、意見交換を行った。また、12 月 6 日は、かなエルハウスから、国分寺崖線を経由して、野川公園自然観察センターへ行き、そこで、公園緑地の管理の実態について、ヒアリング、その後、大沢の里などを経由して、ICU 湯浅八郎記念館で国分寺崖線の地層を学んだ。

野川公園自然観察センターヒアリングの様子

【講座を通じて得られた知見】

■企業との連携の重要性

福岡市では企業の若手リーダーとのネットワークを取材する『サンケイリビング』とタイアップをして、若手リーダーに花で共創のまちづくりに関するアイディアをいただき、若手リーダーと連携し、オフィス内のフラワーアップなど、様々な活動を展開している。

元気のある企業と人材をネットワークすることの可能性と効果を学ぶことができた。

■NPO、大学、企業の連携による自立・内発的なまちづくり活動への期待

行政側が市民を直接サポートする仕組みでは、行政側のサポートのシステム（費用と協力体制）に個々のまちづくり活動が依存することとなる。

ハケのメディアラボ事業展開を検討するにあたっては、行政側の体力の制約を踏まえて、NPO、大学、企業の連携をによる自立・内発的なまちづくり活動への期待が高いことが確認された。

【参加者の感想】

―福岡市住宅都市局花とみどりのまち推進部一人一花推進課　N 氏の感想

この度は，貴重なお時間いただき誠にありがとうございました。

視察のきっかけですが，当課が推進しております、花で共創のまちづくりの取組み『一人一花運動』を今後更に展開していくなかで「行政ではなく、実際に地域を巻き込み、実践している人の話が聞きたい！」ということがきっかけで、この度、木村様よりご紹介いただきました。

視察では、小金井や周辺の三鷹・国分寺などで「まちづくり」をされている方々との話をする中で、評論家でもなく、窓口として淡々とこなしているわけでもなく、魂の込もった「実践」をしている人達との交流や対話はまちづくりのツールが違えど、同じ方向を目指す当課にとっては、とても刺激的で勉強になりました。

歴史的な魅力や貴重な生物の生息場所となる「はけ」をツールとしたまちづくりの事例をお聞きする中で、当課としても、一人一花運動を、今後も持続可能な取組みとしていくためには、地域の魅力や特徴を活かしたり、周りの地域の人々を巻き込んでいくきっかけとなる仕組みや枠組みを作っていくことが、今後の一人一花運動の展開において必要であると感じました。

まだまだ始まって間もない取組みですが、花づくりを通じて地域の方の生きがいや地域コミュニティの活性化に貢献できればと思っております。また、何かございましたらお気軽にご連絡お待ちしております。

改めてお忙しい中ご調整いただき、ありがとうございました。

（中略）

古民家で国分寺バードハウス振興会スタッフ様にいただいたバードハウスですが、現在、私の家の庭に設置させていただいております^^

３）コーディネート支援（「はけ」の SDG s 講座プログラムの実施支援）
　ーはけと生き物。

【講座の概要】

〇実施日時：2020 年 12 月 7 日 10 時～15 時
　　アフタートーク：15 時―17 時

〇会場：滝乃川学園　石井亮一・筆子記念館講堂（国立氏矢川 3-16-1）

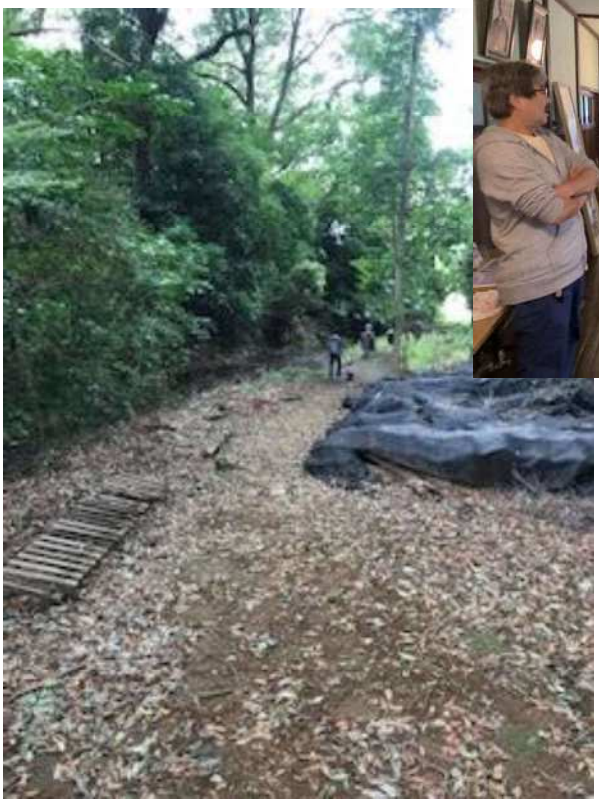
〇講師：椿真智子（東京学芸大学人文科学講座 地理学分野教授）
　　西田一也（国立研究開発法人 国立環境研究所。ママ下湧水公園の会）
　　米川　覚（滝乃川学園石井亮一・筆子記念館　館長）

国立市には３つのハケ（崖線）、国分寺崖線、立川崖線、青柳崖線があり、水と自然に恵まれたこのエリアには、人間だけではなく多様な生きものたちが集まり、棲息しています。ハケ（崖線）の湧水周辺について、地理学、生態学の先生に話を伺い、意見交換を行った。

【支援の内容】

主催者である国立農園の会のメンバーとの協議を通じて、プログラム企画内容や講師の紹介などを行った。

滝乃川学園での事前協議の様子



滝乃川学園内のハケの様子

ハケと生きもの。

なぜ、私たちはハケに集まるのでしょう？

2019年12月7日（土）10:00-14:30（9:30開場）

［会場］ 滝乃川学園　石井亮一・筆子記念館 講堂
東京都国立市矢川3-16-1　https://www.takinogawagakuen.jp/

［内容］ ①午前の部（10:00-12:10）：講演会
②昼食会（12:10-13:10）：お弁当と飲み物付き
③午後の部（13:10-14:30）：滝乃川学園のお話

［料金］ ①午前の部：1,000円 ②昼食会：お弁当代（飲み物付き）1,000円
③午後の部：無料　※先着80名。お弁当のお申込は1週間前までです。

国立市には3つのハケ（崖線）＝、国分寺崖線、立川崖線、青柳崖線があります。
このハケ周辺には、古の時代から人々が集まり、先人たちの礎のもとで歴史が育まれてきました。
また、青柳崖線と立川崖線周辺の豊かな水源と肥沃な大地は、昔から農業のさかんな地域であり、
湧水周辺は自然にも恵まれ、人間だけではなく多様な生きものたちが集まり、棲息しています。
「なぜ、私たちはハケに集まるのでしょう？」
今回は、地理学と生態学の先生をお招きし、この疑問を皆さまと一緒に紐解きたいと思います。
会場の「滝乃川学園」は、創設者である石井夫妻が、青柳崖線の中にあるこの環境を気に入り、
日本初の知的障がい児者のための福祉施設を創設したという、自然とやさしさに満ちた場所です。
昼食会では、谷保の大地と農家さんが育てた地場野菜を使ったお弁当もご用意いたします。
ハケの森の中、昭和初期を代表する教育建造物「石井亮一・筆子記念館講堂」でお会いしましょう。

午前の部／講師

◉東京学芸大学 人文科学講座 地理学分野教授
椿　真智子 先生

◉ママ下湧水公園の会（国立研究開発法人 国立環境研究所）
西田一也 先生

午後の部／お話

◉滝乃川学園 石井亮一・筆子記念館 館長
米川　覚 氏

タイムスケジュール

9:45	受付開始
10:00～	開会のご挨拶：小野淳（くにたち農園の会理事長）
10:10～	講演／椿　真智子先生（10分質疑応答）
11:10～	講演／西田一也先生（10分質疑応答）
12:10～	昼食会
13:10～	滝乃川学園のご紹介：米川 覚氏
14:10	質疑応答
14:30	閉会

（閉会後は、学園内の見学と散策をお楽しみください）

お申込・お問合せ　NPO法人　くにたち農園の会

お申込は、（1）お名前（2）参加人数（3）連絡先電話番号／E-mail
（4）お申込ご希望内容（①講演会／②昼食会／③午後の部）
をご明記の上、以下のメール宛、もしくは右のQRコードからお申込ください。
（やむをえずメールをご利用いただけないかたは、お電話にてご連絡ください。）
kunitachinouen@gmail.com　☎090-9208-9278（担当理事：小林）

お申込専用
QRコード

［主催］ NPO法人 くにたち農園の会　国立市谷保5119（やぼろじ内）　https://hatakenbo.org
［共催］ 滝乃川学園ガーデンプロジェクト「花王・みんなの森づくり活動助成」

【講座を通じて得られた知見】

■ハケの存在と生物の関係の再発見

キツネの親子を見たという、国立農園の会代表の小野氏の話しから、はけの水辺空間の水棲動物生息状況調査結果などの発表があり、ハケやその周辺の緑地には貴重な動植物が多くあることが確認された。

人が癒され、憩う場として、はけという視点ではなく、そこの棲息する動物の立場から、はけを見直す意義と可能性が確認された。

■ハケの環境保全や環境保全活動に関わる人材・組織のネットワーク化

終了後、佐藤氏(NPO)バース、小野氏（国立農園の会）と意見交換を行った。

はけに根差し、活動を行っている研究者、NPO などのまちづくり活動組織が数多くあることが確認され、ハケの環境保全や環境保全活動に関わる人材・組織のネットワーク化を図ることの重要性が共有され、2020 年度に向けたアクションについて、意見交換を行った。

２．『はけのスタディブック』作成に向けたアンケート調査の実施協力～～～～～

2-1.アンケートの目的と実施方法

（１）目的

「はけ」の教材化を検討するにあたり、「はけ」に関連した取り組み・活動をされている人材の認識・経験について考察するため、東京学芸大学地理学分野・教授椿 真智子氏が、(NPO)グリーンネックレスなどの協力を得て、アンケート調査を実施しました。

（２）アンケート内容

①. 「はけ」と聞いてまず思いつく簡単な言葉や表現を３つあげてください。
②. あなたは普段「はけ」と「崖線」を区別して使用されていますか。
③. あなたにとって「はけ」の魅力とは何でしょうか。
④. これまでに「はけ」の魅力に気づいたきっかけや出来事はありますか。ある方はどのようなきっかけや出来事かを具体的に教えてください。
⑤. 日常生活において「はけ」との接点はありますか？ある方は、どのような接点かを具体的に教えてください。
⑥. あたながとくに好きな「はけ」の特定の場所はありますか？ありましたら具体的に教えてください。
⑦. 「はけ」に関連して、あったらよいと思われる取り組み・活動やイベント等がありましたらお教えください。
⑧. 今後の「はけ」のあり方や課題等について、ご意見・ご感想などありましたらご自由にご記入ください。
⑨．回答者の属性（住所、居住歴、性別、年齢）

（３）アンケート実施期間

６月２０日～7月３０日

（４）アンケート回答者数

42 名

【アンケート調査票】

「はけ」に関するアンケート調査のお願い

本アンケートは、「はけ」の教材化を検討するにあたり、「はけ」に関連した取り組み・活動をされている皆様のご認識・ご経験について考察させていただくためのものです。ご回答いただいた内容はそれ以外の目的には使用いたしません。ご不明の点等ございましたら椿までお寄せください。お忙しいところ誠に恐縮ですが、何卒よろしく御願い申しあげます。

2019 年 6 月 20 日　　東京学芸大学地理学分野・教授　椿　真智子
E-mail：tsubaki@u-gakugei.ac.jp　研究室電話：042-329-7310

1．「はけ」と聞いてまず思いつく簡単な言葉や表現を 3 つあげてください。
①
②
③

2. あなたは普段「はけ」と「崖線」を区別して使用されていますか。該当する番号に○をつけ、カッコ内はご記入ください。
①同じ意味としてとらえ、両方を使用している
②同じ意味ととらえているが、普段は（　　）を使用している
③区別して使用している→どのように区別されていますか？
「はけ」
（　　）
「崖線」
（　　）
④わからない

3. あなたにとって「はけ」の魅力とは何でしょうか。該当する番号に○をつけ、カッコ内はご記入ください。（複数回答可）
①緑（樹木）の多さ　②多様な自然環境（生態系）　③湧水や小川の存在
④景観・風景として→とくにどのような景観・風景でしょうか
（　　）
⑤変化のある地形　⑥眺望・眺めの良さ　⑦坂(道)　⑧旧石器時代や縄文時代等の遺跡の存在　⑨歴史の積み重ねや変遷　⑩寺社の存在　⑪庭園や公園の存在
⑫「はけ」の上と下の相違→とくにどのような相違でしょう
（　　）
⑬その他（　　）
⑭とくに魅力は感じない　⑮わからない

4. これまでに「はけ」の魅力に気づいたきっかけや出来事はありますか。ある方はどのようなきっかけや出来事かを具体的に教えてください。
・
・
・

5. 日常生活において「はけ」との接点はありますか？ある方は、どのような接点かを具体的に教えてください。
・
・
・

6. あたながとくに好きな「はけ」の特定の場所はありますか？ありましたら具体的に教えてください。
・
・
・

7. 「はけ」に関連して、あったらよいと思われる取り組み・活動やイベント等がありましたらお教えください。

8. 今後の「はけ」のあり方や課題等について、ご意見・ご感想などありましたらご自由にご記入ください。

9. 最後にあなたご自身についてお教えください。
・現住地：(　　)市　　・現住市での居住歴：(　　)年
・性別：女・男　　・ご年齢：10 代・20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代

アンケートは以上です。ご協力誠にありがとうございました。
※回収方法（締切り：7 月 31 日）：ご所属団体の代表者様にご提出いただくか、メール添付で直接椿へご返信くださる場合は「tsubaki@u-gakugei.ac.jp」宛にお願いします。なおその際、「文書名」を「はけアンケート」とご記載いただけますと大変幸いです。

2-2.アンケート調査結果

（1）回答者の属性

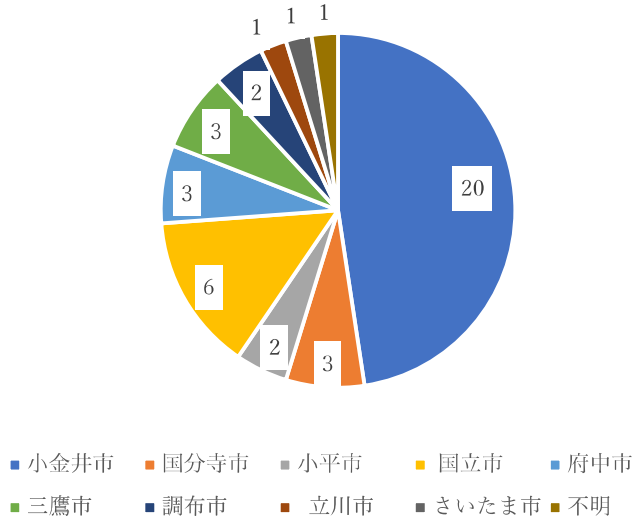
① 回答数

42 名

② 回答者住所

小金井市在住が 20、国立市、国分寺市、三鷹市など、崖線沿い自治体 15、合計で 35（全体の 81%）、それ以外の自治体在住者が 7 となっている。

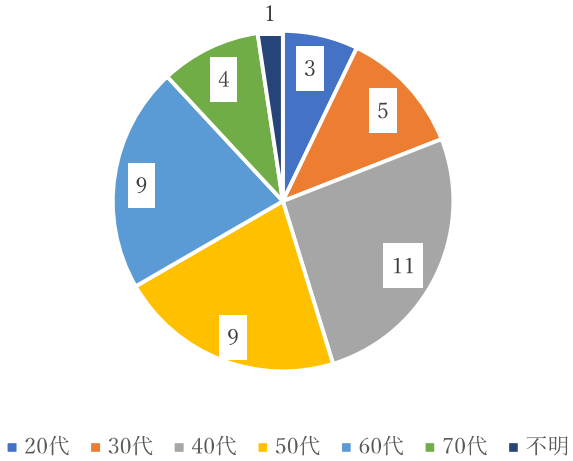
グラフ　アンケート回答者住所



③年齢

40 代が最も多く 11 名、50 代、60 代が 9 名、 3 0 代が 5 名、70 代が 4 名、20 代が 3 名となっている。

グラフ アンケート回答者年齢



③ 性別

女性 15 名、男 26 名 不明 1 名となっている。

④ 現住市での居住歴

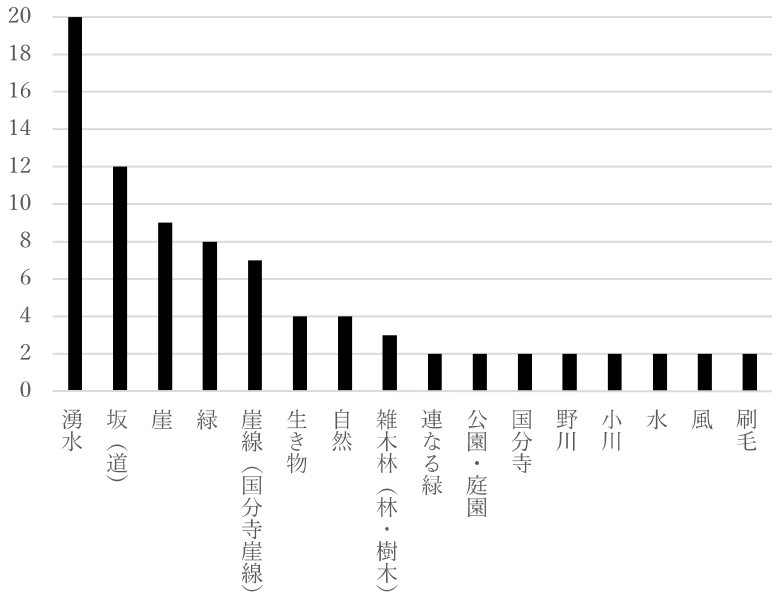
10 年未満 6 名、10～20 年 8 名、 20～30 年 10 名、30～40 年 3 名、 40 年以上 13 となっており、うちハケ周辺生まれ育ち：5 名(12%)である。

（2）ハケに対するイメージ

①「ハケ」と聞いてまず思いつくことば・表現 3 つ

もっとも特徴的な「湧水」、地形・景観「坂」「崖」自然的要素が主、人文的要素は少ない。

グラフ 「ハケ」のイメージ



②あなたにとって「ハケ」の魅力とは(複数回答可)

湧水や小川の存在 32、緑や樹木の多さ 30、多様な自然環境（生態系）26 眺望・眺めの良さ 18、景観・風景として 1 8 と、回答があがっている。都市的生活の中での身近な自然、眺め 日常生活で体験・感じたものを魅力としてあげる回答が多くなっている。

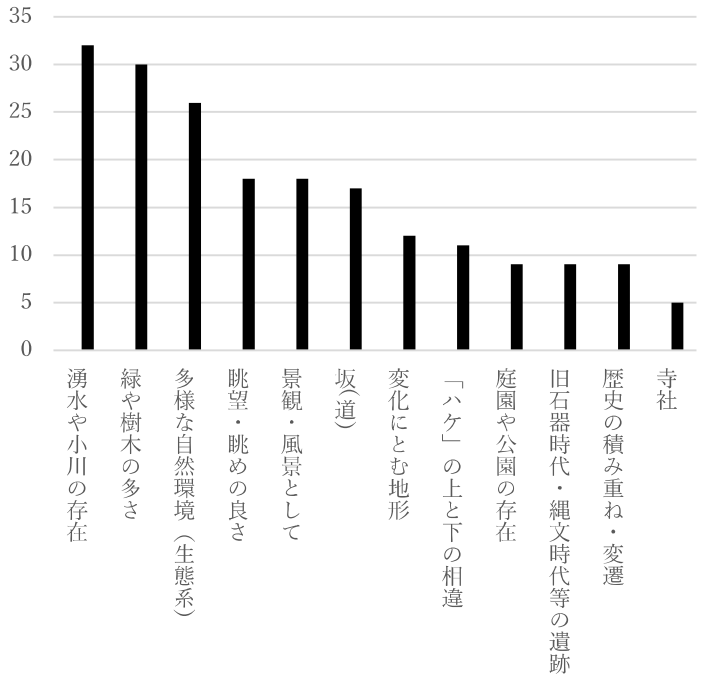
魅力：生活的風景

ハケの魅力についての自由記述は下記の通り。

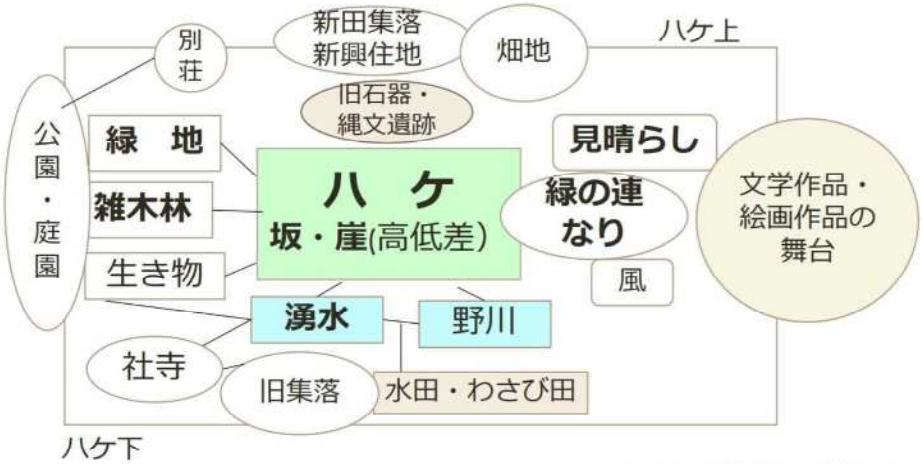
・「日本昔ばなし」や「トトロ」にでてくるような懐かしい風景
・坂上からの見晴らし、坂下からの緑（樹木）の連続した壁、樹木のさま
・四季折々・朝夕の色彩の変化、暗闇
・開発から遠ざけられた原風景 水を中心とした営み 蛇行する野川
・小動物たちの生息の場、蛍

・気温の差：坂を降りると風が涼しい。上から下へ自転車で降りると気温が下がるのを肌で感じる。空気が変わる。下が暖かい。
・ハケ下は自然・生き物がいっぱい。のどか。
・ハケ下は旧村、湧水、用水、田んぼ、水がある環境、上は新田・社宅・集合住宅・
乾燥
・昔は水田のある下が裕福、今は駅がある上が市の中心という感覚の移り変わり

グラフ ハケの魅力



ハケのイメージ・魅力を構成するおもな要素



（アンケート調査の回答より）

③これまでに「ハケ」の魅力に気づいたきっかけや出来事あるか?
36／42 名が、あると回答。

■身近で見慣れた景観・環境の中での
〇新たな事実・存在への認識・気づき 14 名
・湧水の存在 ・過去にわさび田や遺跡があった
・東西に続く緑の帯 ・生き物や多様な植物の存在
・ハケの上下での景観や気温の違い ・ハケの自然と歴史や暮らしとの関係
〇偶然の心地良い（幸せを感じる）体験 12 名
・夏のひんやりした空気・湧水
・風の音や美しい空や緑、鳥のさえずり、季節や一日の中での風景の変化
・生き物の様子 ・子どもたちが遊ぶ様子
■ライフステージや居住地移動（結婚・子育て・退職等）に伴う経験 9 名
■地域活動やイベント等をとおした人との出会い・交流 8 名

⑤ 日常生活で「ハケ」との接点あるか?（複数回答可）
36／42 名が接点があると回答。
・ハケ周辺に居住 13
・通勤・移動経路 11
・職場が近い 5

３．はけ歩きゲームデザイン〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

3-1.はけ歩きゲームデザインの目的

本プロジェクトは、4 年間の中期プロジェクトとして『ハケのメディアラボ』を立ち上げ、情報発信とまち歩き事業の連携展開を目指している。その事業の柱として、はけ歩きゲームを展開するため、はけ歩きゲームデザインのひな型を作ることを目的としてを『ムジナ家族ゲーム』を実施しました。

3-2. 『ムジナ家族ゲーム』の概要

（1）実施日時・会場

2019 年 8 月 24 日(土)13:00〜16:00

東京学芸大学公開講座

『ハケの不思議：百年前「地図」と双六でタイプスリップ

講師：椿真智子（東京学芸大学教授）

コーディネータ：土肥英生

（ムジナ博士・ＮＰＯ）グリーンネックレス）

（2）参加者

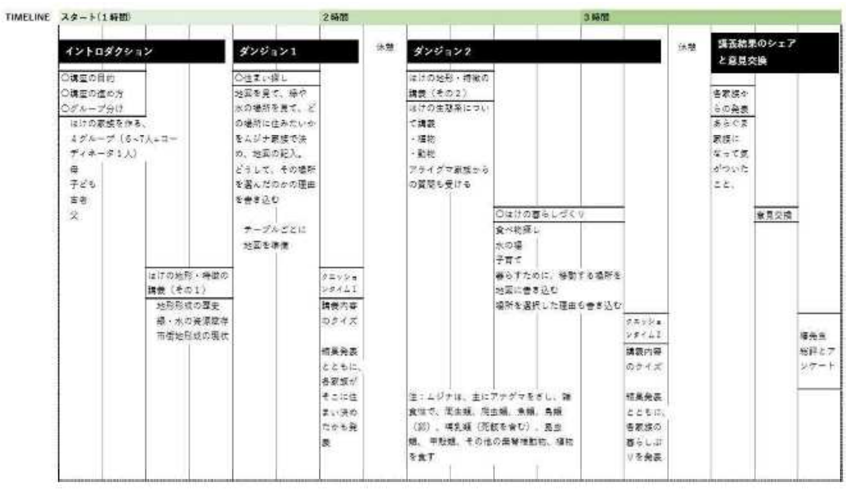
女性８名、男性１５名

小学生１２名、大人１１名

居住地：ハケ沿い：１５名　都区部など：８名

（3）『ムジナ家族ゲーム』の検討の進め方

ヘンリーサノフのデザインゲームと、ロールプレイングを組み合わせ、生き物の立場から、はけの魅力と価値を発見する『ムジナ家族ゲーム』を椿真知子教授と 3 回の協議を踏まえ、プログラムデザインを行った。(下記、検討資料)



2019年東京学芸大学公開講座

ハケの不思議：100年前の「地図」と「双六（すごろく）」でタイムスリップ

日時：8月24日(土)13:00～16:00

会場：東京学芸大学講義棟N201教室

対象：小学生と保護者、一般、教員など

講習料：一人1,000円（資料代含む，ご家族はまとめて一人分）

担当：椿真智子(地理学分野)，「はけの学校」

後援：小金井市・国分寺市観光協会

募集期間：6月22日～8月3日

申込み：東京学芸大学公開講座「申込フォーム」を送信または「公開講座申込書」を郵送・Faxで下記までお送りください。

お問い合せ先：東京学芸大学広報企画課地域連携係

Fax042-329-7878　メール：renkei@u-gakugei.ac.jp

送付先〒184-8501東京都小金井市貫井北町4-1-1東京学芸大地域連携係

※公開講座および「申込フォーム」は東京学芸大学Webサイト「公開講座」をご覧ください。講座内容に関しては椿まで(tsubaki@u-gakugei.ac.jp)

ムジナ家族が幸せにくらせる場所はどこ？
「ハケのムジナ家族ゲーム」で
いっしょに探そう！

3-3. 『ムジナ家族ゲーム』プログラム

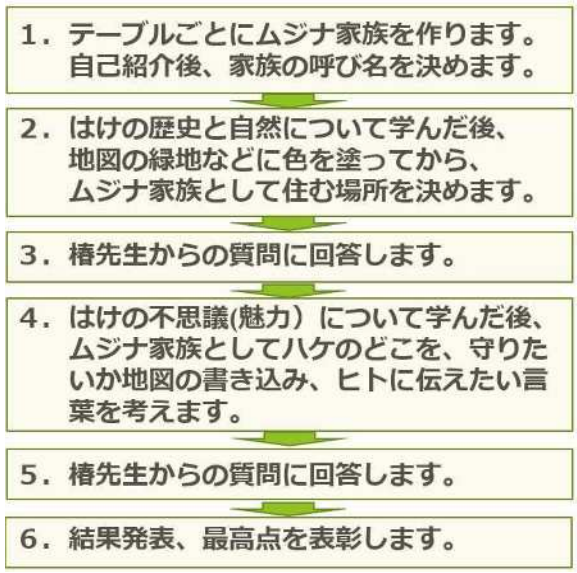
（1）プログラムの特徴

単に、ハケに関する知識の講義・啓発にゲーム性を加え、ムジナの疑似家族を作るロールプレイングゲームを通じて、大人も子どもを対等に参加できる『ムジナ家族ゲーム』を実施しました。その特徴は以下の通りです。

①全員がムジナになって（ムジナ家族）を作る
②たくさんのムジナの住んでいた100年前にタイムスリップ
③ムジナ家族で力をあわせて、考え、クイズ・質問に答える
④キーワードは『ハケ』：生き物、人間が古くから生活したきた場所

（2）プログラムの進方

各テーブルにコーディネータがつき、『ムジナ家族ゲーム』を以下の手順で実施した。



受付

ムジナ家族ゲームの様子

ムジナ家族ゲーム(グループワーク)の様子

（３）参加者アンケート結果

有効回答：２３票、生き物の立場から考えるのは、子どもには難しいのではないかという危惧があったものの、予想以上に積極的なゲームへの参加があり、参加者の満足度は高く、当初の目的であった『はけ』への関心を育てるという目的から見ると、『はけに興味を持ったか』という質問に対して、『興味を持った』２１票（９１％）、『まあまあ興味を持った』２票（９％）と良い成果が得られた。

①参加動機

はけに興味あり　１７票(７４％)

その他(面白そう）４票（１７％）

夏休み自由研究　３票（１３％）

親・先生に言われて　１票（４％）

②プログラムを楽しめたか

楽しめた　１７票（７４％）

まあまあ楽しめた　６票（２６％）

③はけに興味を持ったか

興味を持った　２１票（９１％）

まあまあ興味を持った　２票（９％）

④はけのまち歩きに参加したいか

是非参加したい　　１５票（６５％）

時間あえば参加したい　　８票（３５％）

（参考資料１）『ムジナ家族ゲーム』プログラム

2019.08.24　（NPO）グリーンネックレス

『ハケの不思議：百年前の「地図」と「双六」でタイプスリップ』
進行スケジュール

日時：8 月 24 日(土)　13:00～16:00
会場：東京学芸大学 N 棟 201 教室

時間	イベント	作業内容	担当	備考
11:20	会場鍵開け	・会場設営(机・椅子・プロジェクターなど) ・資料準備(模造紙、ペン、資料など)	椿	・資料必要部数印刷
11:30	スタッフ集合	・設定テーブル数、参加者のターブルへの配置決定	椿	・名簿準備 ・班分け
11:45	会場設営	・会場設営(机・椅子・プロジェクターなど) ・資料準備(模造紙、ペン、資料など) ・ファシリテータの役割確認	全員	・資料必要部数印刷
12:40	受付開始	・資料と名札入れを渡し、指定した番号の席へ誘導		・名簿準備 ・班分け案内
13:00	司会	・司会による、開会 ・写真・記録についての確認と説明	土肥	・最も成果を得た＊チームに賞品もありとアナウンス。
13:05	はじめに	・講座の趣旨説明	椿	
13:10	スタッフ紹介		椿	
13:15	ムジナ家族ゲームオリエンテーション	・ムジナとは何か、 ・ムジナ家族ゲームの進め方の説明	土肥	・パワポ説明
13:20	ムジナ家族になろう	・ﾌｧｼﾘﾃｰﾀが「ムジナ家族カード」を参加者に渡す	土肥	・ムジナ家族カードを交換

		・家族カードに呼んでもらいたい名前を書き自己紹介 ・グループ名を決める		したいと方がいればカード交換
13:30	はけのお話１（地図で百年前にタイムスリップ）	・「ハケ」とは何か、どこにあるのか、など「ハケ」の自然・歴史について講義	椿	・Ｑ&A 用の情報を入れる
13:45	ムジナ家族ゲーム１（どこに住むかを決めよう）	・ﾌｧｼﾘがゲームの趣旨説明 ・ムジナ家族が地図に緑と川を記入する ・家族で相談してどこに住むかを決める	土肥	・記入用地図の準備
14:05	質問タイム１	・グループで相談し、回答を決める 質問１　【桑は何のため】 質問２　【毎日の水】	椿	・司会が点数を記入
14:10	結果発表	・各グループがどこに住むことを決めたか、なぜその場所に決めたかを発表	土肥	・2 分×5
14:20	休憩			
14:35	はけのお話２（ハケの不思議をもっと知ろう）	・縄文海進など、気候変動と人の居住場所の変化、人間の人口増加が地域の環境のどう影響を与えたか？	椿	・ハケの魅力的な写真をパワポなどで紹介。
14:50	家族ゲーム２	ムジナ家族は、ハケの何を残したいか、書き出す。（場所が特定できるものは、地図のポストイットで貼る） ・ムジナの家族の餌場、水飲み場を相談して決め、貼り込み、ムジナ家族の生活を人間のＰＲするためのキャッチフレーズを決める。	土肥	
15:15	質問タイム２	・グループで相談し、回答を決める 質問３　【百年前の畑】	椿	

		質問４　【百年前の林】 質問５　【湧き水】		
15:20	結果発表	・各グループがキャッチフレーズ名と、どうして、そのキャッチフレーズにしたのか、発表	土肥	・2分×5
15:30	グループからの質問	・各グループ発表に関する意見交換	土肥	
15:40	投票と投票結果発表	・司会は記入された結果をもって、投票結果を発表	椿	・各賞の出し方が事前の決める
15:45	椿先生講評			
15:50	賞品の授与		椿、野口	・賞品の準備
15:55	アンケート記入		土肥	
16:00	閉会		土肥	
16:30	会場撤収			

＜参考資料２：椿真知子教授説明資料＞

とうきょうがくげいだいがく　こうかいこうざ

2019年東京学芸大学公開講座

ふしぎ

『ハケの不思議：
100年前の「地図」と「双六」で
すごろく
タイムスリップ』

日時：2019年8月24日(土)13:00～16:00
会場：東京学芸大学講義棟N201教室

Ⅰ　はじめに

○今日のゴール：およそ3万年前から人間や多くの生き物が生活してきた「ハケ」と呼ばれる場所の不思議を探る！

○今日のポイント4つ：
1：全員が「ムジナ」になって考えます。
　　別名「アナグマ」

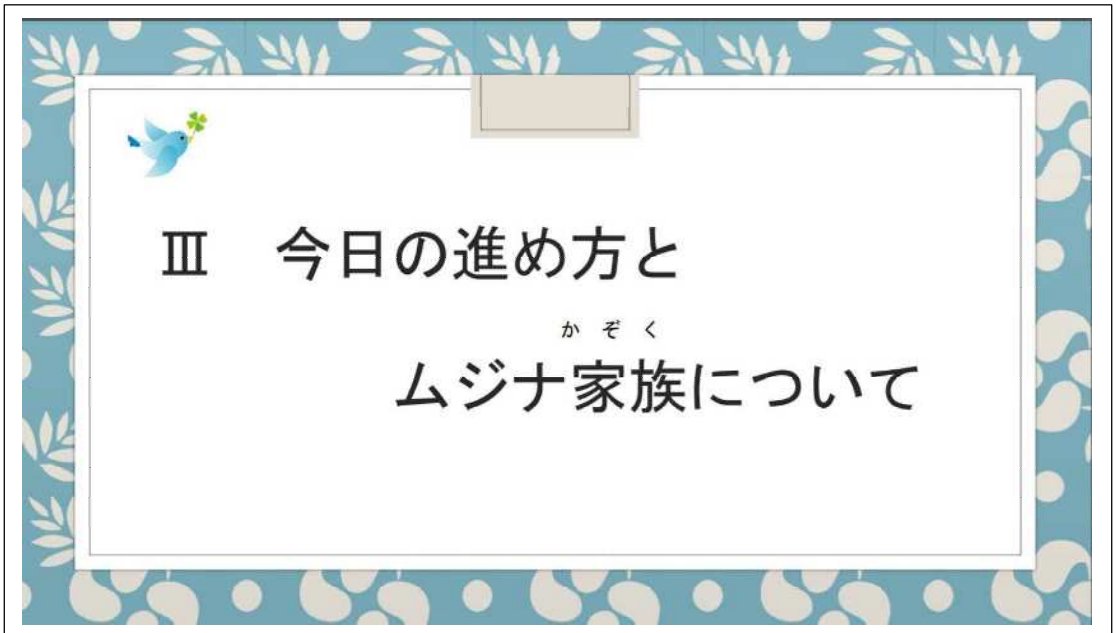
2. たくさんのムジナがすんでいた100年前に
タイムスリップ

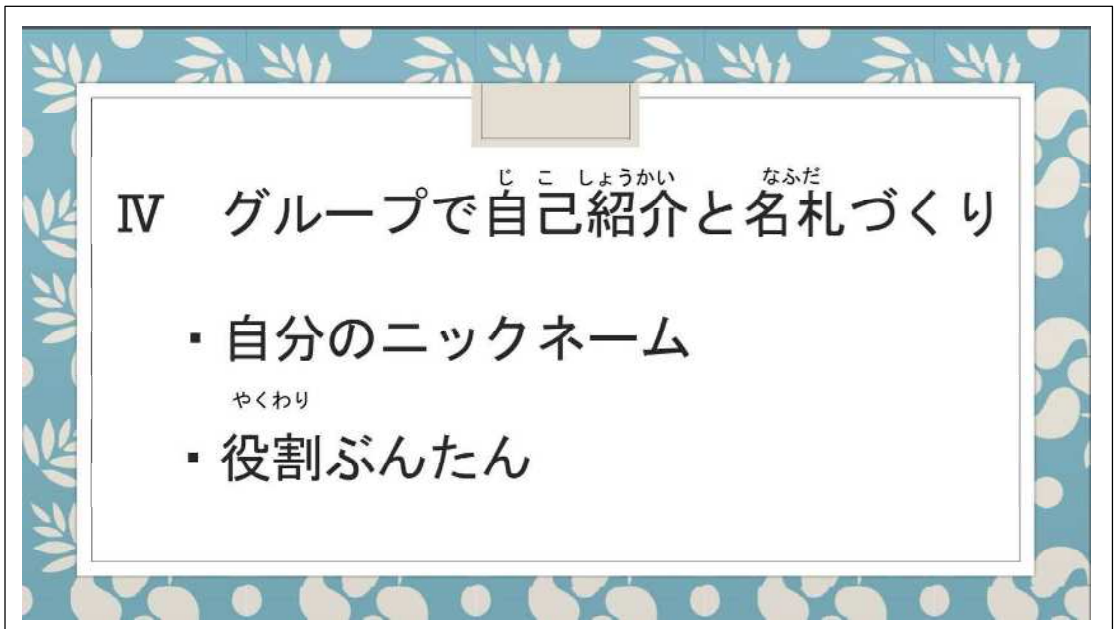
3. 「ムジナ」家族で力をあわせて考えます
家族の中で自分の役割を決めよう。

4. 最大のキーワードは「ハケ」
生き物や人間が古くから生活してきた場所

Ⅱ　スタッフ自己紹介（じこしょうかい）

わからないこと、こまったこと
があったら、なんでも聞いてね


Ⅲ　今日の進め方と
かぞく
ムジナ家族について


Ⅳ　グループで自己紹介と名札づくり
じこしょうかい
なふだ
・自分のニックネーム
やくわり
・役割ぶんたん

Ⅴ レクチャーその１
「地図で100年前にタイムスリップ」
（1920年代）

(1)地図の見かた：北が上、地図の記号（きごう）

(2)おもな場所をかくにんしてみよう

今のJR中央線「国分寺駅（こくぶんじえき）」「武蔵小金井駅（むさしこがねいえき）」
東京学芸大学

(3)自分の家があったらマークしよう

---

(4)百年前のふうけいを想像しよう

①「水田」をみつけよう！（緑色でぬってみよう）

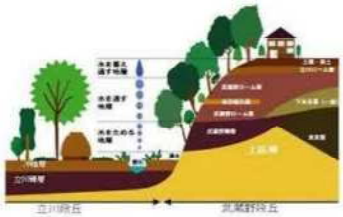
どんなところにある？（なぜ他の場所にはない？）
→水田には「水」が必要！

②水の流れを確認してみよう（青色でぬってみよう）

「わき水」でできた川がある

③等高線（とうこうせん）にちゅうもく！

→等高線の間がせまくなっているところ
＝急な坂・しゃめん、「ハケ」と呼ばれる
高さの差はおよそ7～18m



④水田以外の場所はどのように利用されていたか？

畑（はたけ）

※地図記号のないところ

桑畑(くわばたけ)

林(はやし)

○水がない場所では水田はできない

質問タイム1：

「桑(くわ)は何のために栽培(さいばい)したのかな？」

①葉を家畜(かちく)(牛や馬)のえさにする
②養蚕(ようさん)を行うため＝蚕(かいこ)のえさ
③木を利用するため

→答え：おもに②養蚕(ようさん)
桑の葉を蚕(かいこ)のえさにする

蚕がつくるまゆ
→きぬいと

○江戸時代おわり頃から百年前ぐらいまで「養蚕」とても盛ん。
蚕(かいこ)を飼うためにはたくさんの桑が必要！

質問タイム2：

「百年前の水道がない時代、毎日の水をえるためにはどうしていたのかな？」

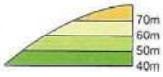
①ペットボトルの水をかう
②どこかに水をくみにいく
③井戸(いど)をほる

→答え　②と③
・川が遠い場合、遠くまで水をくみに行くのは大変！
・地下水がふかい場合、人の手で井戸をほることはできない。

○高い台地(だいち)の上とハケの近くでは、生活に必要な水や環境(かんきょう)がことなる！

急に緑色の場所がふえたね。何か意味があるのかな。

「はけ」をさがいに。土地の高さがちがうことがわかるね。地図の色を見ると土地の高さがわかるよ。



Ⅶ レクチャーその2

「ハケの不思議をもっと知ろう」

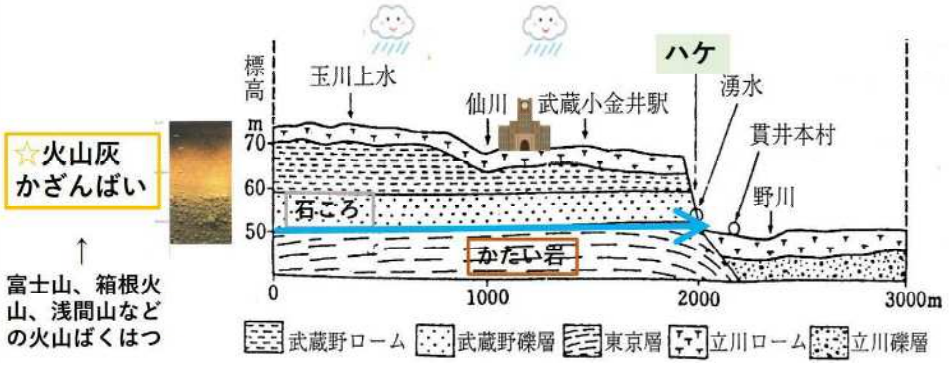
(1) 地図上でハケの広がりをかくにん！
→立川市から大田区まで約30kmつながってる

〇なぜ長くつながっているのかな？
→昔の「多摩川」が流れる水の勢いで台地(だいち)をけずっていったから

国分寺市付近の地形のようす

ムジナ坂

○台地の断面をきると・・・
・雨が土にしみこみ、かたい岩の上を低い方へ流れる「水みち」ができ、ハケ下から「わき水」としてでてくる
・「わき水」のおかげで3万年前から人や生き物が住みやすい場所



○ハケの近く:約3万年前～旧石器時代(きゅうせっきじだい)や縄文時代(じょうもんじだい)の遺跡(いせき)や生活のどうぐがたくさん発見された

→南向きで陽あたりがよい。植物や生き物の種類も多い。

人間の食べもの：
植物や木の実:クリ・クルミ・ドングリ・トチ、山菜、木の芽、ハチの子など
狩り:イノシシ・シカ・ウサギ・タヌキ・サル・ムジナ・キジ・カモなど

魚とり:サケ・コイ・フナ・ナマズ・ウナギ、貝など

○ハケの近くにはどのような施設(しせつ)があるかな？

→神社(弁天(べんてん)さま)や寺が多い

・だいじなわき水がでる場所は大切
・昔から人がすんでいた。
・水が湧く場所に弁天さま
　＝インドの「水の神」
・地名「小金井(こがねい)」村

○神社やお寺の境内の木は勝手にきってはいけない。多くの緑が残された。

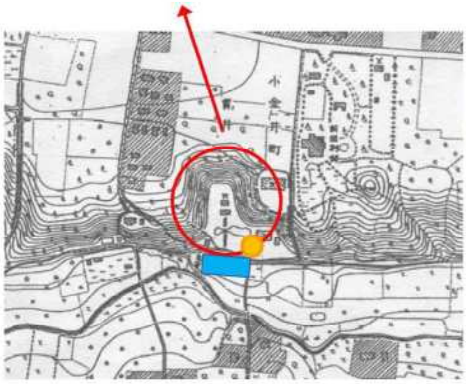
○やく1300年前(奈良時代)、ハケ沿いに「武蔵国(むさしのくに)」の役所や「武蔵国分寺(むさしこくぶんじ)」がつくられた。

武蔵国分寺あと

府中駅近くの武蔵国の役所あと

貫井神社(ぬくいじんじゃ)前の「貫井プールの碑(ひ)」

○なぜここにプールをつくったのか？



→豊富なわき水があったから。
昔は学校にプールがなかったので、96年前、小金井村の人たちが協力してつくった。

・わき水は一年中、温度がほぼ一定（15度前後）。
夏は冷たく、冬は暖かく感じる
→地名「ぬくい」

質問タイム3:「百年前、畑ではおもに何をそだてていたでしょう？」

① ブロッコリー

② ブルーベリー　→答え:③大麦や小麦

③ 大麦や小麦

○麦はどうやって食べる？使う？
・小麦は粉にして「うどん」「すいとん」など
・大麦は家畜のえさ

質問タイム4:「百年前に広がる林の多くは人の手でうえたもの。何のためにうえたのかな？」

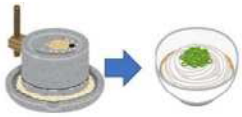
①強い風や強い陽ざしをさえぎるため
②建物をたてるのにつかうため
③たきぎ（燃料ねんりょう）にするため
④おち葉を畑の肥料(ひりょう)にするため

→答え：すべて

もともと水がなくて人が住めなかった台地の上で、300年ぐらい前から新田開発(しんでんかいはつ)が始まり、少しづつ農家がふえていった。
農家の人たちは、家のまわりや畑に必ず木をうえて大切に育てた。

質問タイム5:「わき水があつまって流れる野川(のがわ)に昔は大きな水車(すいしゃ)がたくさんあった。水車(すいしゃ)は何に使ったのかな？」

①水の流れの速さをはかるため
②水車の力を利用して、米や麦のからをとったり、粉(こな)にするため
③まわして遊ぶため



→答え②　水車が水の流れでまわる力を利用して、米や小麦・大麦のからをとったり、粉にする

質問タイムはこれでおしまい！

みんなハケについてくわしくなったね。

3-４．『ムジナ博士』上遠氏ヒアリング

（１）目的

北多摩地域でニホンアナグマ（ムジナ）の家族の棲息が確認されている地域が、三鷹市の国際基督教大学構内です。国際基督教大学の上遠岳彦博士にニホンアナグマ（ムジナ）の生態とその有様から見える、地域の現状を聞き、『ムジナ家族ゲーム』の監修協力を得ることを目的として、インタビューを行いました。

（２）インタビュー実施日時・場所

○インタビュー実施日時

２０２０年２月１４日（金）１３:００～１４：００

○インタビュー場所

国際基督教大学理学館３階 Ewing307

○インタビュー対象者

上遠岳彦　国際基督教大学教養学部 アーツ・サイエンス学科講師

○インタビュー担当者

北玲子、横田右近、野口由紀子、土肥英生..

ICU 構内で撮れた二ホンアナグマ（上遠氏提供）

（３）インタビュー成果（記事的なまとめ）

ハケを下る「ムジナ坂」に「同じ穴のムジナ」。このムジナって何？その正体はニホンアナグマ。ICU（国際基督教大学）キャンパスで子育てが確認されるほど、身近な動物だ。

ICU にいる中型の動物は、ハクビシン、ネコ、外来種のアライグマ、タヌキ、ニホンアナグマ（以下ムジナ）の５種。ムジナが初めて観察されたのは 2007 年。動物が通ると自動でシャッターが下りるカメラに写ったことで、

その存在が明らかになった。仕掛けた上遠岳彦先生も「ムジナがいるとは思わなかった」という。ムジナも東京都の絶滅危惧種である。23 区内では、目撃情報が少しあるのみで、都市部に一番近い繁殖地は ICU キャンパス。つまりここがムジナ生息地のへりだ。

1960 年代、三鷹以降の都心ではタヌキも一度いなくなった。それが 70 年代に入って少しずつ戻った。現在タヌキは皇居にもいるし、丸の内でも目撃情報がある。谷保の天満宮にはキツネもいる。

ムジナは繁殖するのに巣穴が必要で、ICU ぐらいの広さがないと難しい。ハケの斜面が開発されにくかったことが、ムジナの生息につながっている。ムジナ発見後すぐ巣穴も見つかったが、長く使われたものではなかったので、昔から ICU にいたのではなく、どこかからやってきて棲み着いたと考えられた。

山から多摩川沿いを下り、野川を遡って ICU に到着したか、側溝や下水道を利用したか、断定はできない。

ムジナは穴掘りが上手。多い時には 20 個もの巣穴を掘って子育てする。時に子供をくわえてどこかに姿を消し、大きくなった子を連れて再び現れることもある。1 箇所に長く留まると寄生虫が発生しやすく、それを防ぐためだと考えられている。大きな巣穴は 10〜20m にも及び、構造も複雑。ムジナが掘った巣穴をタヌキやアライグマが使うこともある。これが「同じ穴のムジナ」のゆえんだ。子育て中のタヌキに攻撃されて、ムジナが巣穴から退散するなんてことも…。

穴を掘るのは静かな人通りの少ないところばかりではなく、駐車場の真ん中に掘り始め、ICU に隣接する住宅の庭を 5、6m も掘り返したという報告もある。

本来ムジナは夜行性、冬の間は冬眠するが、ICU では冬に出歩く姿が確認されている。冬の間は主食のミミズがいなくなることもあり、あまり食べなくなる。

ムジナよりタヌキの方が足が早く、行動半径が広い。タヌキは住宅地にもよく出入りするが、ムジナは野川側へ出入りすることが多い。タヌキとムジナの糞を比べると、タヌキの糞からは輪ゴムやビニールのかけらがたくさん出てくるが、ムジナからはあまり見つからない。タヌキの方が都市生活に順応した生き残り戦略に長けている。

４．『はけのメディアラボ(仮）』の運営スキームの検討と具体化〜〜〜〜〜〜〜〜

4-1.「はけ」物語の視点を深める『はけの絵／音コンテ・コンテスト』の提案

（１）目的

ハケ（国分寺崖線）の魅力を多くの人に知ってもらうために、はけを PR する CM 的なものを、ハケを知らない人（知っている人も）に作ってもらう、という企画を提案する。

作る過程で自然にはけに触れ、考えることで、書物や講座等で学ぶよりも深いはけの理解が期待できる。見る側も娯楽を通して構えずにはけに触れることになる。

*メディア企業と連携し、映像だけでなく、音のコンテストとすることも一案。

（２）背景

一般の人々の感性を掬い上げる 昨今は CGM（Consumer Generated Media）ともいわれる、価格コム、食べログ、Yahoo!知恵袋、クックパド、５ちゃんねる、インスタグラム、YouTube、Pixiv などが普及し、企業側・プロだけではなく消費者側・素人によるコンテンツが影響力をもつようになってきている。

若い人材がハケに興味を持つきっかけとして、一般の人（非専門家）の感性を掬い上げることができれば、作り手には機会の提供となり、ハケ（自然環境）の魅力を広めることもでき、一石二鳥になる。

（３）『はけの絵コンテコンテスト』の特徴

■ゲーム要素

優劣を競うことが作品の質を磨くことのインセンティブになり、ゲーム性も出る。そのために、その能力・審美眼を持った審査員に採点・コメントをしてもらう。審査員候補には三鷹市にゆかりのある、目利きのクリエーターを呼び、多様な基準から審査する。

■絵コンテ

フォーマットは「30 秒の映像作品を前提とした絵コンテ（を１コマずつ紙芝居形式にプレゼン）」とする。他のフォーマット、たとえば４コマ漫画やフリップ芸（紙芝居芸・めくり芸）、完成された映像（動画）等ではなく絵コンテとするのは、画力やプレゼンパフォーマンスよりもアイデアに重点を置き、特別な技術を持たない人でも参加しやすくするためである。

■審査

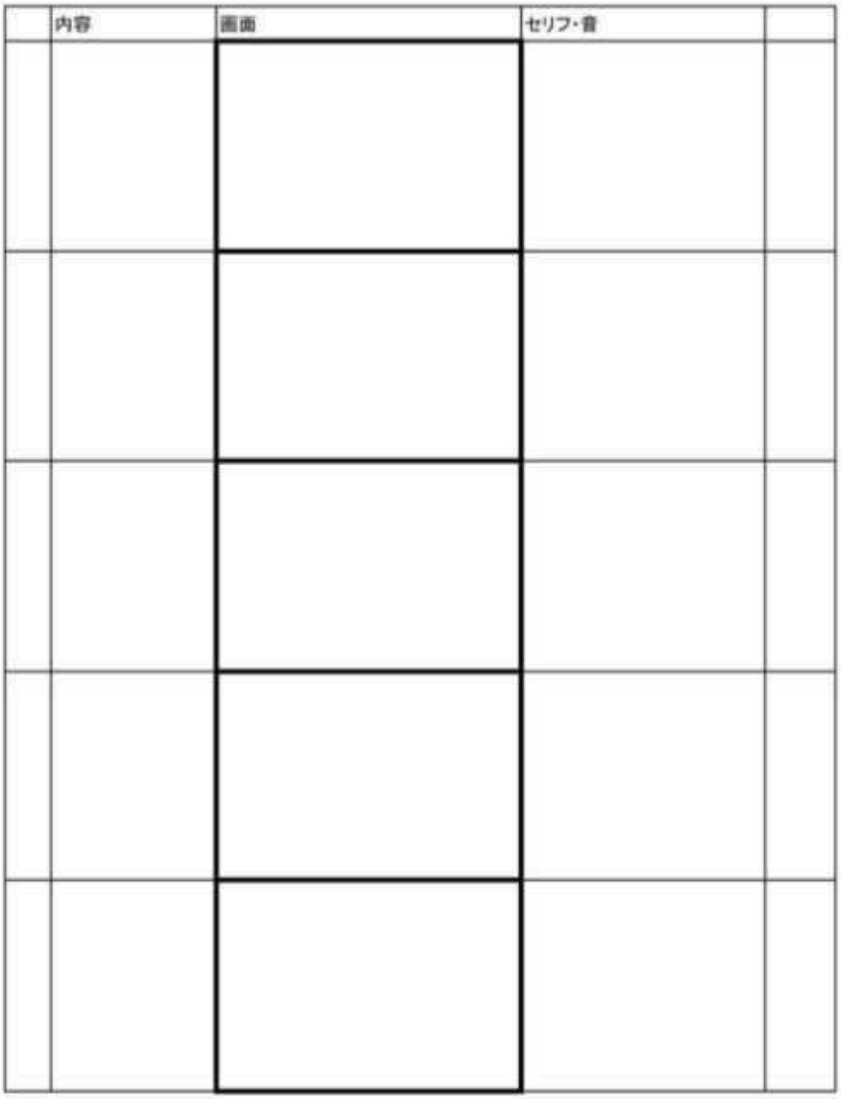
「欽ちゃんと香取慎吾の仮装大賞」や「America's Got Talent」のような長寿ヒット番組にみられる公開コンテスト形式にすることで、審査自体もエンターテイメントにすることを目指す（メディアの候補は映像・印刷媒体・ネット等）。司会候補としては、はけや武蔵野にゆかりがあり、CM や映像に詳しい司会者を探す。 また、俳句の句会も参考になる。千野帽子は著書「俳句いきなり入門」で、俳句は風流な「お芸術」でも自己表現でもなく知的なゲームであり、句会は言葉の総合格闘技だとして、句会「東京マッハ」を開いている（開いていた）。作品そのものと同じかそれ以上に作品をめぐるやりとりを味わうという、こういったスタイルも取り入れる。

（4）絵コンテコンテストのフォーマットイメージ

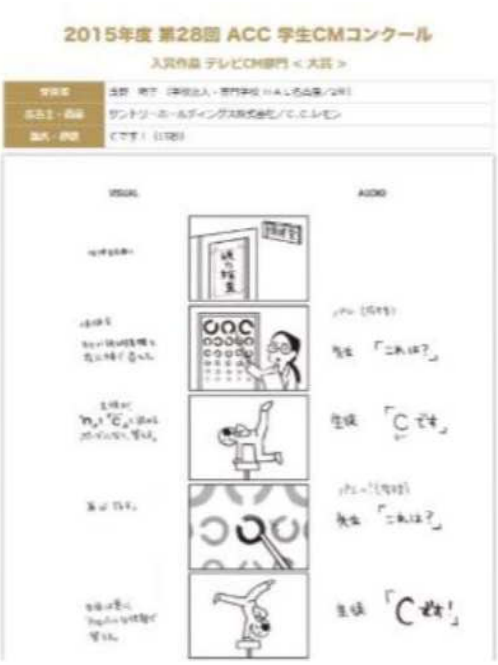
① 図 1 は典型的な絵コンテのフォーマットである。発表時はこれを 1 コマずつバラバラにして、一枚ずつ紙芝居（フリップ）形式で発表してもらう。
② 素材としての「ハケ」は、舞台としてももちろん、崖、坂、湧き水などの物理的側面から、ハケから連想されるなんらか（例：境界、ギャップ、見過ごされてきた場所など）の観念的側面、はけにゆかりのある人物・文学・音楽・芸術・サブカルチャー作品でも構わない。もちろん関連度が低すぎても意味がないので、ある程度の割合が必要になる。目安としては、テレビ CM におけるブランドロゴや商品名の割合くらいだろうか。（はけをメインにして PR するというよりも、素材のひとつとして使うという位置づけ。そうすることで適度な制約となると同時に自由度が上がる）
③ 30 秒の映像が前提なので、コマ数は少なければ 3 枚程度、多くても 10 枚前後になる。公開コンテスト発表時は 1 チームにつき 1 ～ 3 人の発表者がプレゼンを行い、司会の進行 にしたがって各審査員（5 名程度）は点数とコメントを発表する。
④ 公開コンテストの前に、素材となるはけについての知識（遺跡、はけ周辺や武蔵野の歴史、戦時中の様子、地理・地質・地形、文化との関わり、現在の問題など）について学ぶ講座とセットにすることが考えられる。その場合の講座は、はけについて・絵コンテについて・プレゼンの 3 回連続講座などが考えられる。
⑤ 宣伝（募集）場所は、はけ関連はもちろん、養成スクール（映像関連、漫画関連、広告関連、シナリオ作家関連）等の場所・催しで募集宣伝する。はけは知らないけどとにかく絵コンテを作りたい人や、その逆に絵コンテは知らないけどはけに興味がある人の双方の参加を促す。
⑥ 賞など:はけの絵コンテコンテストで優秀な成績を収めたチームは、賞金と絵コンテの映像化を与える。

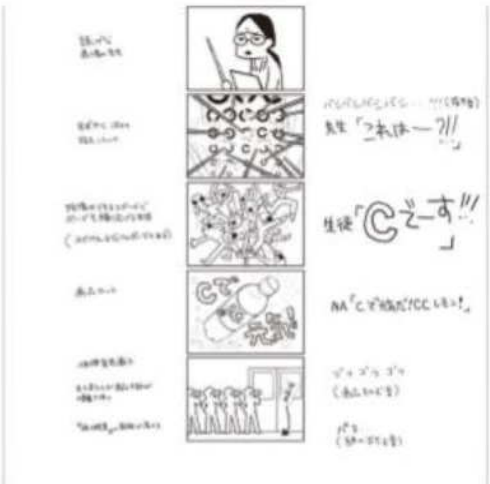
⑦ 長期的には、絵コンテの甲子園ともいうべき東京全域のローカル PR 企画「東京ローカル絵コンテコンテスト」（仮）を立ち上げ、2 段階の審査・コンテストとすることが考えられる。

図 1 絵コンテの用紙サンプル



参考資料３：ACC 学生 CM コンクール作品例より





4-2.『THE 崖線』構成案の検討

（1）趣旨

昨年度、多摩地域の住民に「はけ」の魅力・課題・可能性に関する情報を知っていただくことを目的として、メディアの検討を行い、コンテンツとなる聞き書きなどを行ったことから、これらを活かし、ハケの魅力を発信する『THE 崖線』の企画・検討を行った。

（2）『THE 崖線』ハケのリーフレット企画

1）　特徴と構成

これまでの研究では、社会科副読本の内容やアンケートの結果から、国分寺崖線についての各市の認識と取り組みは一様ではない。さらに、地域の地形について実際に暮らしている住民も意外と知らない、という事実が浮き彫りとなりました。

そこで、ハケについて、カジュアルでかつ地理学視点に沿ったビジュアルな「ハケ」のリーフレットを発行する。

■サイズ版型：A５、８頁タテ　テスト版：500 部（1 万部発行を目指す）
（全 A3 裏表 4 面取り見開き観音折り）

2）主な内容

① はけって何→地形：水を吐く（湧き水）→湧水を集めて野中を流れる川→野川の存在

② 太古には海だったはけの地形が陸地となったのは→富士山等々の山々の火山灰ローム層で形成→武蔵野台地→多摩川が大地を削った扇状地→その一つの等高線に当たる国分寺崖線（地理学的にはまだ新しい認知）→野川は古多摩川の名残川（流量を絶えず変え環境指標ともなっている。その水質等は流域市民がほぼ 30 年モニタリングしている）

③ 江戸時代は将軍の鷹場、大正昭和は近代研究機関　現代はサラリーマンのベッドタウン

④ はけに戦後移住し、はけの環境の維持役を担う ICU キャンパスや修道院等の洋風建築と跡地活用とし誕生した都立公園や在来の神社仏閣。←ハケの固有性（ホスピタリティ／鎮守の森）を認識するゲーム化に向けて

(3) THE 崖線目次

P.1 なぜ、生きものはハケに集まるのだろう
　大沢（ICU）のムジナと谷保（天満宮）のキツネ
　ICU 上遠岳彦先生インタビュー（ムジナ：二ホンアナグマ実写真）

P.2　THE 崖線（表紙）
野川公園大沢あたり／放射冷却現象風景写真(都会の奇跡とまで言われる冬の自然現象
P.3　武蔵野の緑縁
——ハケのみち・まち・みどりをめぐる鼎談——
河村孝　(前三鷹市長)、
國分功一郎　(東京工業大学教授)、
佐藤留美 NPObirth 事務局長
P. 4　水が生み出した大地の歴史／地理学
地形図を活用して、ハケにまつわる歴史と地理空間を見せる。
学芸大公開講座【ハケの不思議】椿先生×はけの学校
武蔵国分寺公園の誕生（ぶんぶんウォーク参加プログラム）
崖線実踏大沢（コミュニティをつなぐ地形）
P.5　–P.6 ハケの物語ナビ図
P.7　崖線実踏 大沢　福岡市役所視察例---環境ガツナグコミュニティ
公園管理者の新しいスタイル
インタビューSDGs について：ローカルファースト代表関幸子
P.8　武蔵国分寺公園の誕生
ぶんぶんウォーク 参加イベント　　兒嶋画廊オーナ×池田敦子（元都議）

4-３.はけのメディアラボ事業の検討

（１）ミッション

ハケの魅力と価値を高めることで、人と生き物の関係が深まり、長期的な視野にたった持続可能な地域形成を実現するため、ハケの情報発信・共有・イベント実施を支えるプラットホームを形成する。

このため、ハケの魅力を発信する『ハケのメガ日記』と『ハケの絵／音コンテ・コンテスト』事業を組み合わせ、コア事業を実施していく。また、オフラインの交流のため、『ムジナ家族ゲーム事業』と『THE 崖線』ハケのリーフレット事業』を展開する。

具体的には、『ハケの絵／音コンテ・コンテスト』で、魅力的なコンテンツ発信者を発掘、この中から、ハケの魅力を発信する『ハケのキュレーター』を育成、これらの人材を月 15 万円程度で、情報発信事業を行う体制を立ち上げ、ハケの情報発信・共有・イベント実施を支えるプラットホームとしていく。

（２）事業

事業は、以下の４事業を柱として展開する。

○ムジナ家族ゲーム事業

東京学芸大学椿真知子教授や、上遠岳雄講師との協働し、プログラムとして、子どもと大人が同時に参加できる『ムジナ家族ゲーム（カードゲーム）』を作り、プログラムとして展開。

○『ハケの絵／音コンテ・コンテスト』事業

マスメディアや地場企業をネットワークし、『ハケの絵／音コンテ・コンテスト』を実施する。

○『THE 崖線』ハケのリーフレット事業

企業と地域を結ぶメディアとして、『THE 崖線』ハケのリーフレット事業を実施、国分寺崖線沿線の地域に配布する。

○『ハケのメガ日記』事業

ハケに関心を持つ市民が、ハケ沿いの様々な活動に参加し、日記形態で WEB 上に展開する、『ハケのメガ日記』事業を実施する。

『ハケの絵／音コンテ・コンテスト』事業で発掘された人材を、『ハケのキュレーター』として位置づけ、ハケの魅力を発信する YOUTUBER して、雇用する。

（３）事業構造

■収入

『ハケのメガ日記』事業

企業会員：2.5 万円／年×100 社　計：250 万円／年

個人会員：100 円／月・人×2 万人　計：2、400 万円／年

事業収入：ムジナ家族ゲーム事業　1、000 円×500 人（50 回×10 人）
50 万円／年
総計：2、700 万円

■支出

ムジナ家族ゲーム事業
200 万円（1 回：2 人日＊1 万円、直接経費 2 万円：4 万円）
『THE 崖線』ハケのリーフレット事業
2 万部　デザイン・発送・印刷　50 万円／季節　200 万円／年
『ハケの絵／音コンテ・コンテスト』事業
300 万円（募集・審査、コンテスト一式）
『ハケのメガ日記』事業　180 万円×3 人、500 万円（ディレクター）
管理・総務経費　860 万円
総計：2、700 万円

（4）事業展開の向けた仮説（今後の検証に向けて）

上記の 4 事業の相乗効果が上がるように、事業展開のシナリオを検討するとともに、『ハケのメガ日記』事業の可能性についてリサーチを進め、事業の具体化を進めていく。

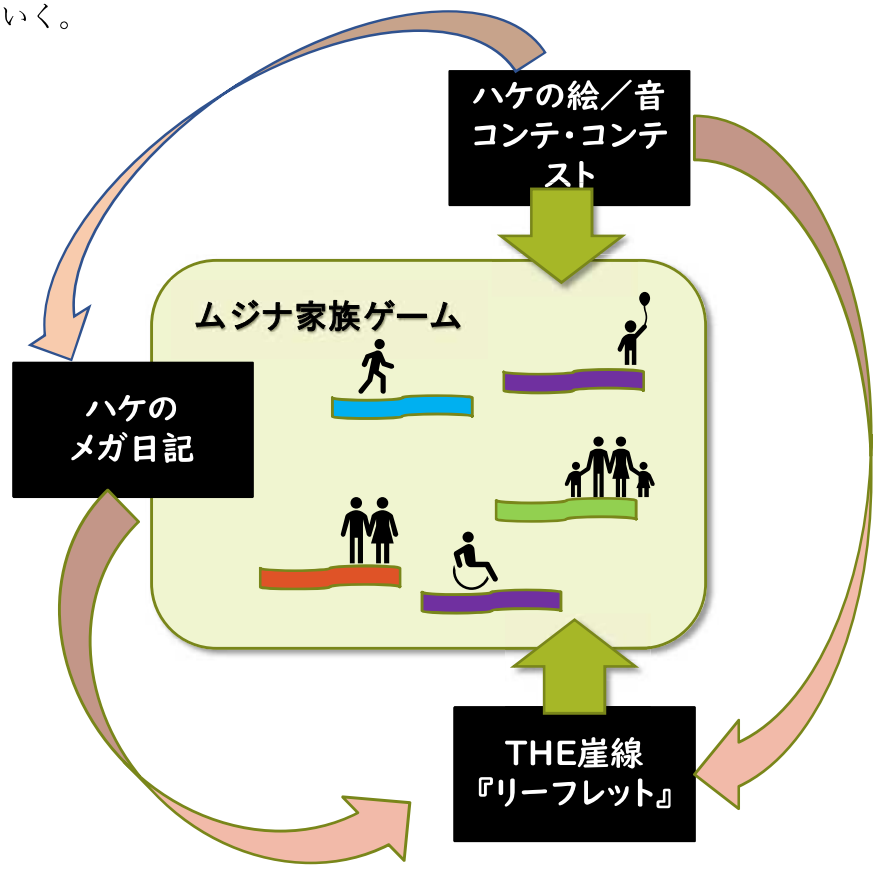


図　ハケのメディア事業展開のイメージ